

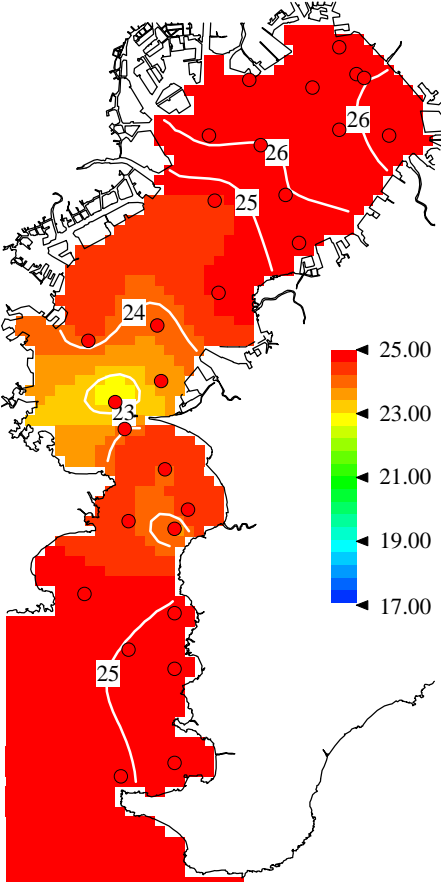
東京湾海況情報 15 - 05

東京湾水質調査結果(平成 15 年 8 月分)
 貧酸素水塊調査結果(7 月 15, 18, 28 日分)ほか

平成 15 年 8 月 11 日
 千葉県水産研究センター 富津研究所
 〒293-0042 富津市小久保 3091
 0439-65-3071 FAX 0439-65-3072
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.jp

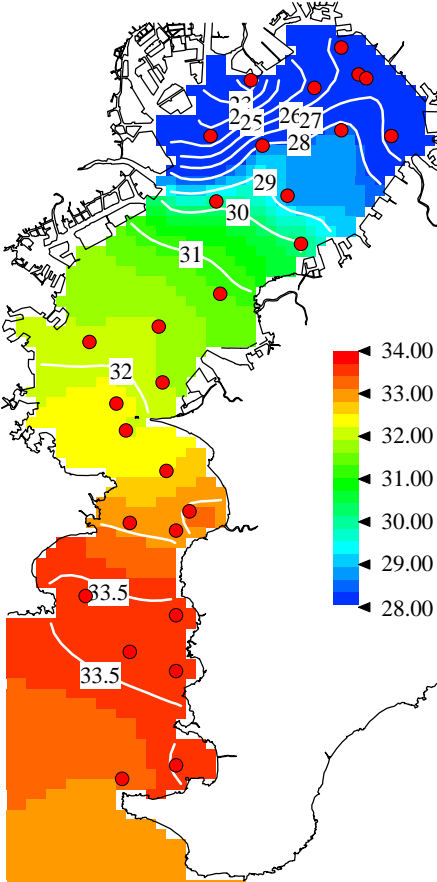
資料：東京湾水質調査(8/4 内房海域：第二ふさみ丸，7/15, 18, 28 内湾：わかふさ)
 東京都環境局，神奈川県水産総合研究センター，内湾底びき網研究会連合会，千葉県環境研究センター，ふさなみ観測資料
 海上保安庁海洋情報部，一都三県漁海況速報，東京湾口海況図

2003/8/4 表層水温(含む海上保安庁)



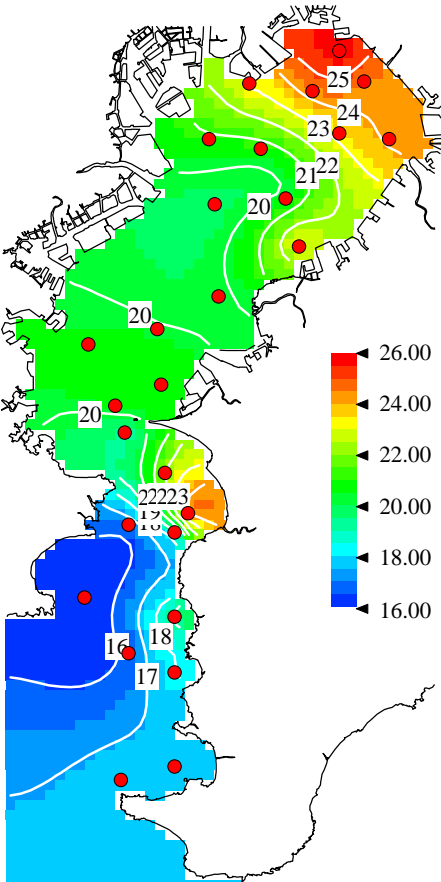
表層水温

2003/8/4 表層塩分(含む海上保安庁)



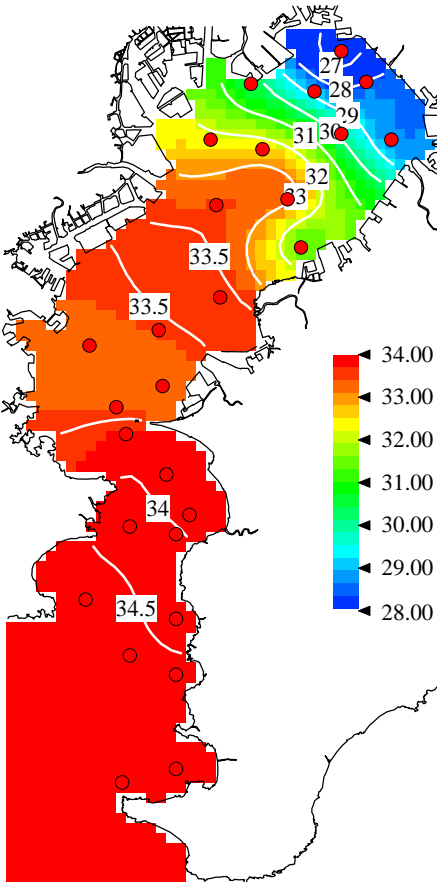
表層塩分

2003/8/4 底層水温(含む海上保安庁)



底層(または 50m)水温

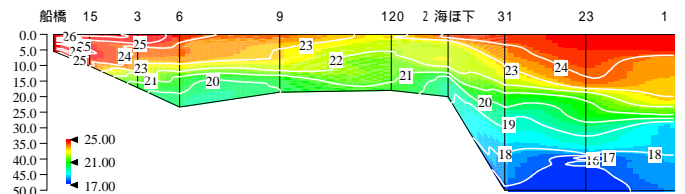
2003/8/4 底層塩分(含む海上保安庁)



底層(または 50m)塩分

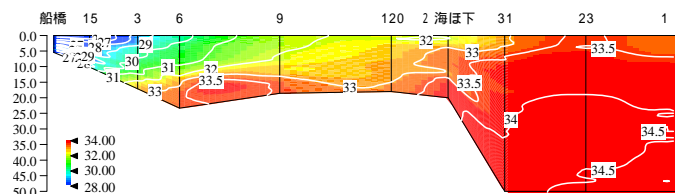
図1 東京湾の水温・塩分分布(8月4日)

2003/8/4 水温



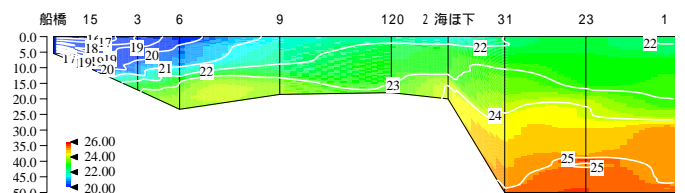
水温

2003/8/4 塩分



塩分

2003/8/4 密度



密度

図2 東京湾南北縦断面の鉛直分布(8月4日)

水温・塩分の状況(図1~3, 表1~4)

8月4日の状況：表層の水温は内湾で 22~26，内房海域で 23~25（いずれも平年より低め）です。表層の塩分は内湾で 21~32，内房海域で 32~33（いずれも平年より高め）でした。南北縦断面の鉛直分布では内湾で水温 19~26，塩分 26~32 でした。内房海域では水温 15~24，塩分 32~34 でした。

8月2日から吹いていた南よりの風のため，表層水が湾奥に運ばれた分布になっていました。

7月8, 15, 18, 20, 28日の状況は図3, 4のとおり。8月まで梅雨がつづいていたため（梅雨明けは8月2日），7月中は低い水温で経過しました。

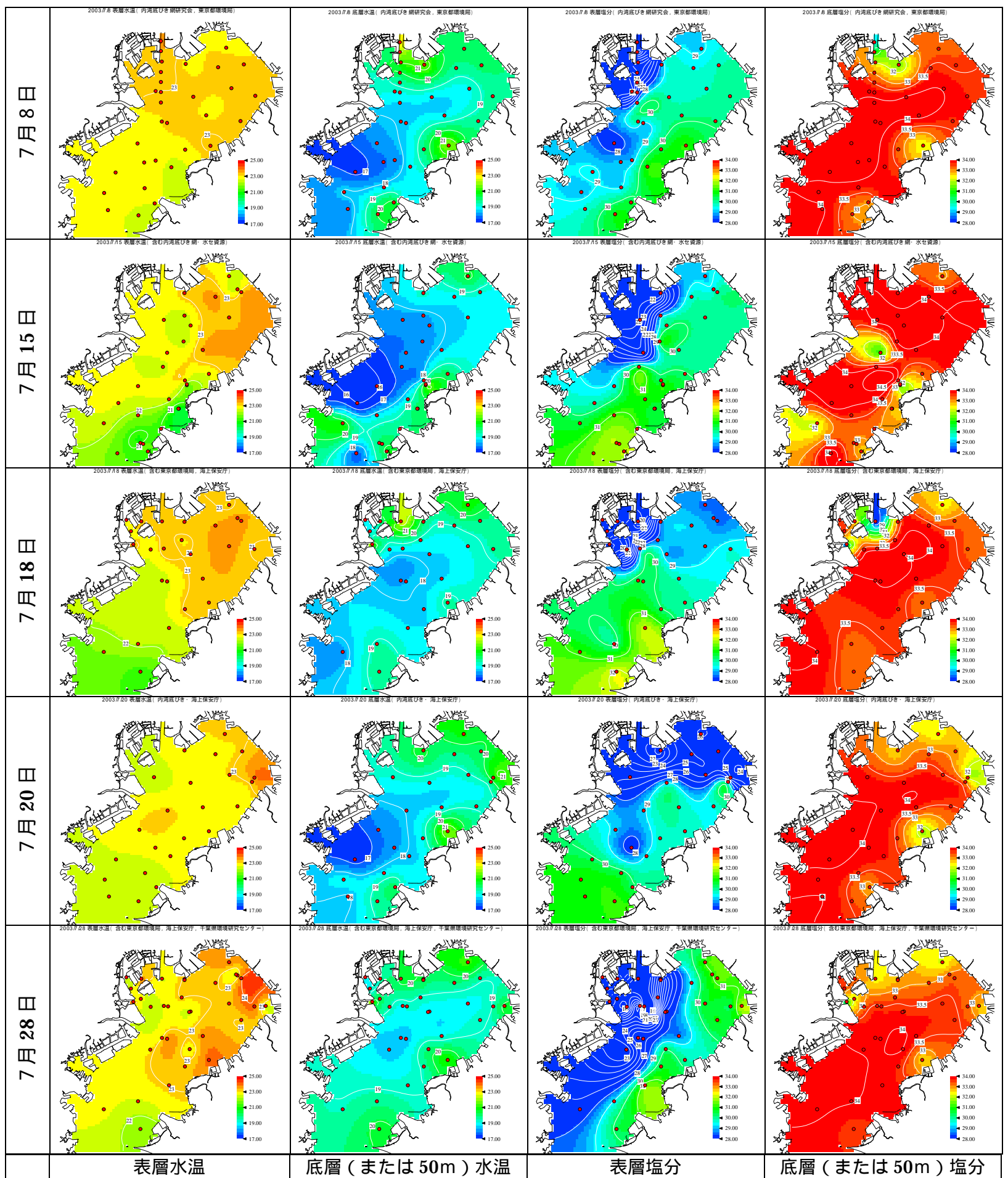


図3 内湾の水温・塩分分布

赤潮の状況(図4, 5, 表1~4)

8月4日の状況: 赤潮は湾奥と内湾中央の一部で発生しています。主なプランクトンは珪藻のスケルトネマ (*Skeletonema costatum*) です(透明度1.5m以下の範囲)。

7月中の状況は以下のとおりです。

7月15日: 内湾北部の千葉~木更津沖で一部赤潮。珪藻のニッチア (*Nitzschia pingens*) とキリンドロテカ (*Lcyllindrotheca closterium*)。また浦安~船橋沖でヤコウチュウ(渦鞭毛藻のノクチルカ *Noctiluca scintillans*) による赤潮。

7月18日: 内湾北部で赤潮。珪藻のニッチア。また湾奥部ではヤコウチュウによる赤潮。

7月28日: 内湾北部~中央部で赤潮。珪藻のニッチアです。また北部ではヤコウチュウも多い。植物プランクトン量の指標となるクロロフィルa量は内湾で19~112 $\mu\text{g}/\text{l}$, 内房海域では1桁台 $\mu\text{g}/\text{l}$ でした。(主要点8点)

千葉県の赤潮の目安(内湾)...色: オリーブ~褐色, 溶存酸素の飽和度: 150%以上, 透明度: 1.5m以下, pH: 8.5以上, クロロフィルa量: 50 $\mu\text{g}/\text{l}$ 以上

表層の栄養塩類(図6, 7, 表1~4)

溶存無機態窒素(DIN)は内湾で10~50 $\mu\text{g}/\text{l}$ 台, 内房海域で10~30 $\mu\text{g}/\text{l}$ 台, リン酸態リン($\text{PO}_4\text{-P}$)は内湾で10~40 $\mu\text{g}/\text{l}$ 台, 内房海域で1桁台でした。

表層ではとても少ない状態ですが, 底層とくに内湾の底層では多く分布しています。

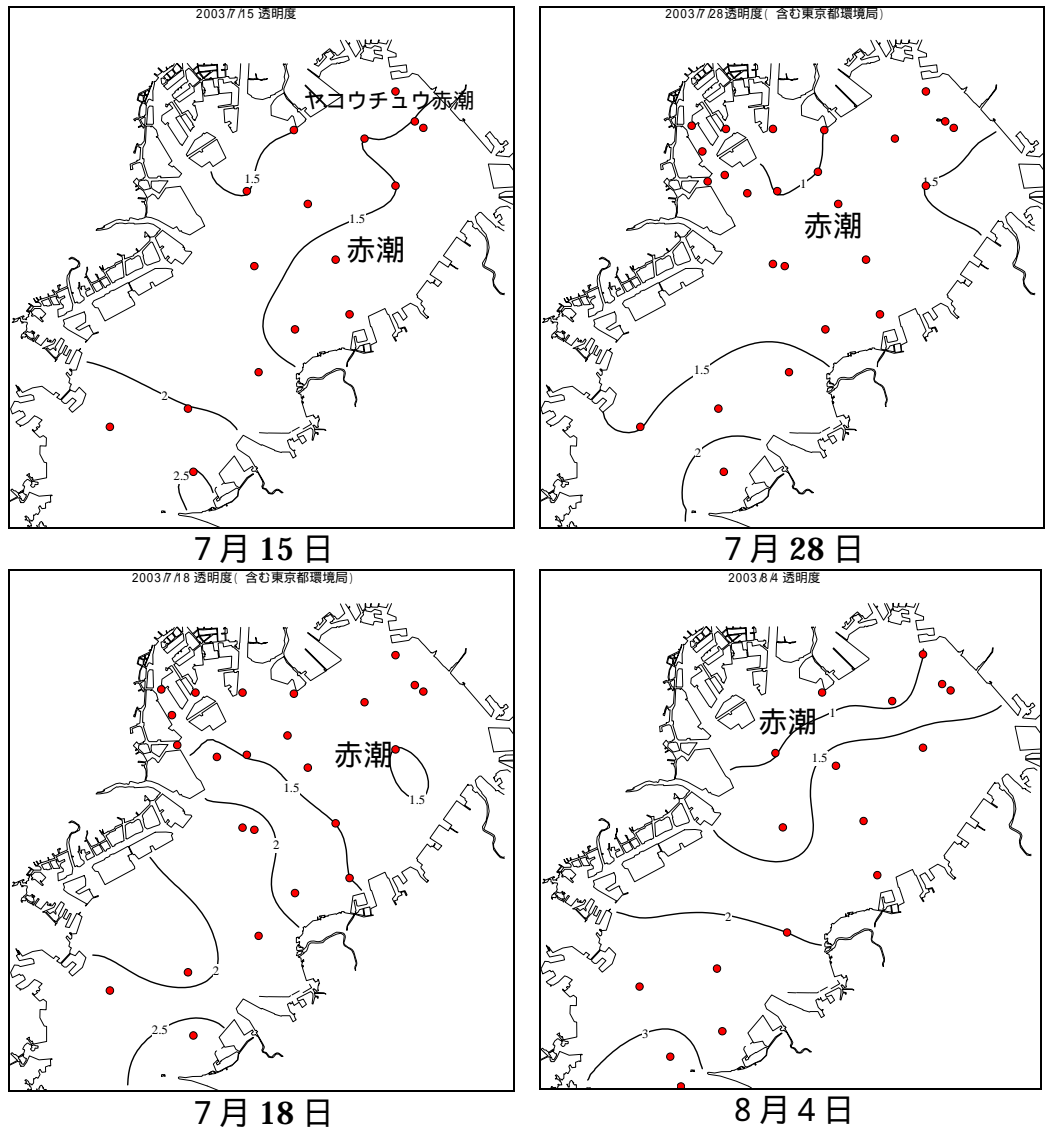


図4 東京湾の透明度分布と赤潮の状況

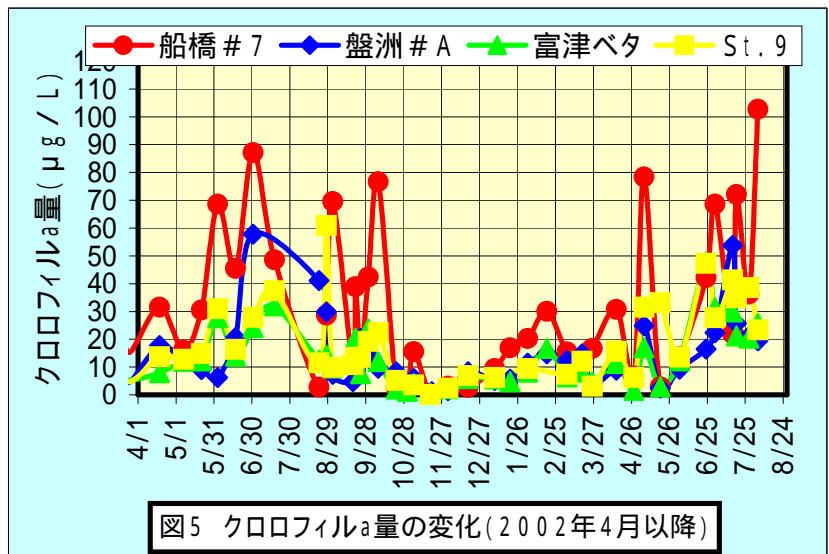


図5 クロロフィルa量の変化(2002年4月以降)

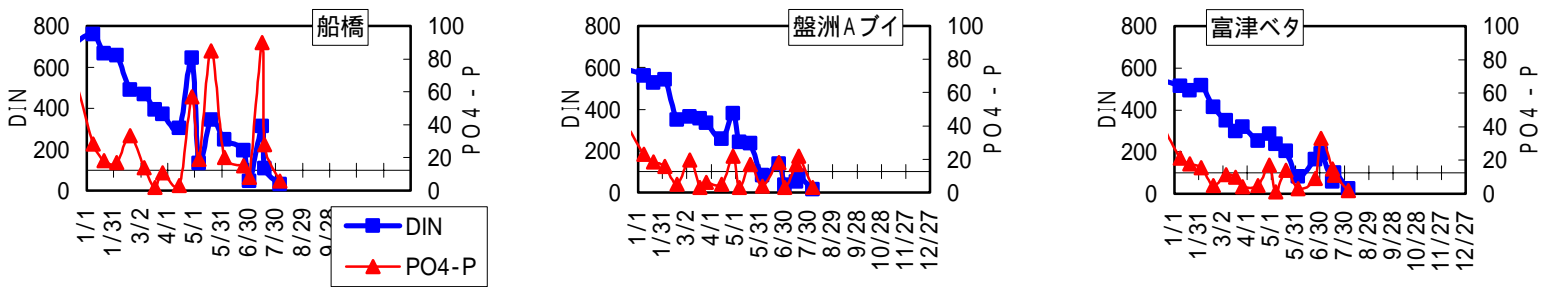


図6 栄養塩類の変化

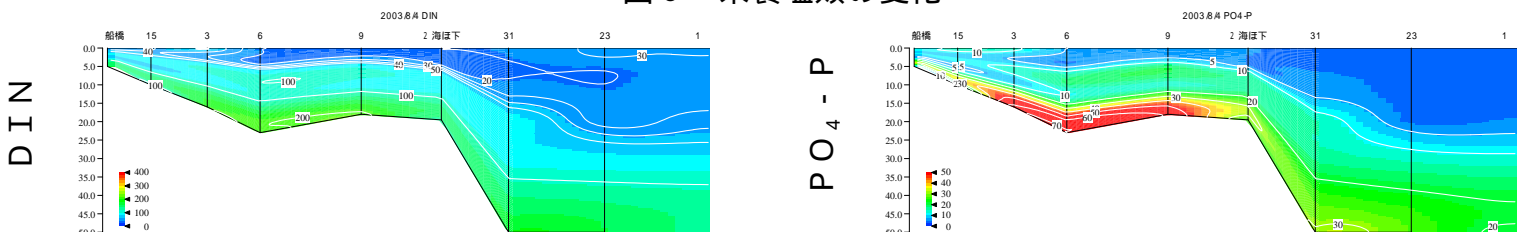


図7 栄養塩類の鉛直分布